



外務省資金協力による「ベトナム国における母子感染症予防事業」の開始  
と国立パスツール研究所（ホーチミン市）との事業協力推進  
ホーチミン市にて2012年3月8日事業協力契約調印

特定非営利活動法人バイオメディカル サイエンス研究会（小松俊彦理事長 東京都新宿区）は、外務省の日本NGO連携無償資金協力の資金を得て「ベトナム国における母子感染症予防事業」を2012年2月から1カ年間の予定で開始します。

WHO世界保健統計2011によると、ベトナム国における新生児死亡率は1000人中12人と、世界193カ国中1位の日本の1000人中1人に比較して極めて高く、出産数が多いベトナムでは母子保健が大きな課題となっています。

今回の事業では、広く母子保健に影響する感染症の予防を目的として、保健・衛生・医療従事者の人材教育を中心にベトナム南部のモデル4地域で、地域医療・行政機関やホーチミン市の国立パスツール研究所と協力し事業を展開します。その中で生活習慣や環境から来る母子の保健衛生リスクに対応するための糸口を数多く見出すことも強く期待されています。今回資金は最初の1年間の事業に対してですが、当初計画の3年間とその後の発展に向けて、できることから計画的に一步一步前進させることで、ベトナム国における母子保健に影響する公衆衛生の考え方が根付き、継続性をもって未来につながるよう努めてまいります。ベトナムで先駆的な実績のある認定特定非営利活動法人ブリッジアジアジャパン（根本悦子理事長 東京都渋谷区）とも相互支援することになりました。各方面からのご支援とご協力を期待しています。



タイニン省の保健センターの様子

特定非営利活動法人バイオメディカル サイエンス研究会の概要

創設： 1987年

理事長：小松俊彦

会員数：法人会員75社 正会員400名 技術資格認定者数：2,400名

設立主旨：予防医学分野の社会貢献を目指して産・官・学・民の支援活動

Website: <http://www.npo-bmsa.org>